

HCU (High Care Unit: 準集中治療室) に入院されていた患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、令和3年3月23日、令和4年3月10日一部改正)の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

【研究課題名】「準集中治療室入院患者における夜間せん妄の予測－機械学習を用いて－」

【研究概要】せん妄とは、アメリカ精神医学会診断基準によると、「身体疾患や中毒を原因とした、急性で変動する注意・意識・認知障害によって特徴付けられる急性脳機能障害」(American Psychiatric Association [APA], 2013)と定義されています。現在、日本では、せん妄を予測するツールはまだ開発されておらず、独自に検討されている段階です。一方、海外では、せん妄予測モデルが使用されていますが、決して精度が良いとは言えません。せん妄予測モデルは、一般的統計分析により人が説明変数の仮説をたてて目的変数を説明できるか分析して導き出されたモデルです。しかし、せん妄は非常に複雑な脳の機能障害であり、もしかすると私たちがまだ気づいていない要因があるのではないかと推測します。それは、臨床で比較的せん妄を予測することができる看護師がいるのを自身が経験しているからです。臨床的直感に優れた看護師がせん妄予測についてどこに着目しているのかを明らかにし、機械学習を用いてそのデータを分析し、今まで明らかになっていないせん妄の要因を本研究で明らかにします。

【研究責任者名・所属】 赤松 湧希 北海道医療大学大学院看護福祉学研究科 NP コース

【研究代表機関名・研究代表者・所属】 北海道医療大学大学院 塚本容子教授 臨床看護学講座 (プライマリ・ケア)

【研究目的】 準集中治療室に入院している患者の夜間せん妄のリスクをその日の日中に予測するためにリスク要因の重要度を導き出すことです。そのために看護師がせん妄予測で着目している要因を明らかにします。

【研究方法】

○対象となる方

2021年4月1日から2022年9月30日までの間にHCUに入院していた方

○利用するカルテ情報：下記の情報を研究代表機関に記録媒体を用いて提供します。なお、個人を特定できる情報は削除し、提供します。

年齢、性別、せん妄の状態、せん妄発症時間、HCU入院日数、内服薬、診療科、病名、入院前の生活場所、体温、入院中の生活助教、吸引・酸素の使用、Naの値、鎮静・麻酔の使用、既往歴、挿入物、リハビリの状況等

【研究実施期間】

実施許可日～2022年12月22日まで

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

※上記の研究に情報を利用することについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さん意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合は研究対象としないので、以下にご連絡ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。

【連絡先・相談窓口】

札幌東徳洲会徳洲会病院

住所：札幌市東区北 33 条東 14 丁目 3 番 1 号

電話番号：011-722-1110（代表）

担当者：看護部 赤松 湧希